

「日日是好日」

賀茂小学校長 小田加奈子

七月二日、ホタルの幼虫の餌となるカワニナとりに四年生と一緒に出かけました。昨年は、六月中旬に行ったのですが、今年は、雨天と暑さのため七月になってしまいました。熱中症の心配もあったので、出かける前に四年生の担任とは、「たくさん」としてもとれなくても三十分で終わりにしよう」と決めて出かけました。途中放課後子ども教室コーディネーター林さんが様子を見に来てくださいました。林さんからは、以前に「今年はカワニナが少ない」と教えていただいたいました。

初めてカワニナとりに行った私には、これがカワニナの少ない状態なのかどうかはわかりませんでした。が、それなりに見つけることができました。長靴の中に、用水の水が入ってしまった子も何人もいました。が、体調不良者もなく戻ってこれたことはよかったです。

六月中にホタルの幼虫を育てる環境づくりとして、水槽やその中に入れる石を洗って干し、ろ過機をセッティングするなど準備を進めていました。この日、学校に戻ってから子どもたちは、とってきたカワニナをきれいに洗ったり、生きているものとそうでないものを分別したり、カワニナの餌となるキャベツの保管場所の確認を行ったりと大忙しでした。カワニナの飼育のスタートです。さて、今年は何匹のホタルの幼虫を放流することができでしようか。四年生のがんばりに期待します。

この日は、午前中に名古屋で開かれる会に参加するため、いつもより一時間遅く家を出て駅に向かうことにしました。車に乗り込みエンジンをかけ、「さあ出発！」というタイミングで駐車場前の歩道を右から歩いてくる男の子が視界に入りました。黄色い帽子をかぶった小柄な男の子、たぶん小学一年生なのでしょう。私が出発しようとしていることに気づいたその子は、私の車の前を通過するときに、なんと手を挙げたのです。しつかりと手を伸ばし、通過していきました。びっくりすると同時にほほえましい姿でした。

横断歩道を渡るとき、横断歩道でなくとも道を横切るときに手を挙げる人はたくさんいます。残念ながら、交通安全教室等で教わっているにもかかわらずいけない子がいることも事実です。それなのにその子は、歩道をまっすぐ進んでいるだけなのに手を挙げて歩いていったのです。

手を挙げることは、小さな子どもが存在を、運転手はじめ周りの人に気づいてもらいやすくします。そして、渡りたい（通過したい）という意思表示にもなります。男の子は、自分が通過することをしつかりと私に伝えたかったのでしょうか。動かないで待っていてね」という願いが込められていたのかもしれない。

この子はどんなふうに交通安全指導を受けてきたのだろう、賀茂っ子も一人一人自分の命は自分で守る行動をしてきているだろうかと、長い夏休みを前に改めて考えさせられたできごとでした。